



Career
Design
Support
Magazine

R STYLE

キャリアデザイン応援マガジン
麗澤瑞浪中学・高等学校 アール・スタイル

2018
AUTUMN

Vol.5



To the world!

世界23ヵ国を旅して思う 「留学のススメ」

小崎 愛実子

1994年生まれ。愛知県弥富市出身。麗澤瑞浪中学・高等学校卒業。平成25年名古屋大学情報文化学部社会システム情報学科に進学。本校在学中は、部活動の主将、副寮長など、各方面で活躍。現在は総合商社に勤務。



外国人の友人もたくさんできました

海外旅行から留学へ

初めての海外旅行は、中学1年生のとき。家族でイタリアへ出かけました。両親は、仕事の都合でイギリスに住んでいた時期もあり、旅行中も言葉に不自由することはありませんでした。また、初めての旅行はヨーロッパだったので、日本と全く違う景色に感動し、とても楽しかったことを覚えています。その後も、高校2年生まで、毎年のように海外旅行へ連れていってもらいました。おかげで、日本とは異なる景色をたくさん見て、異なる文化にもたくさん触れさせてもらいました。たくさんのお国を訪れる中、私の中には、現地の人と関わりながら、現地で生活したいという気持ちが芽生えてきました。旅先では、現地の人と一時的な

関わりは持てても、相手のことや、その国のことを深く理解することはできません。もっともっと深く知りたい、感じたいという欲求が、私を留学へと向かわせました。

留学はスーパー エキサイティングな経験

初めての留学は、交換留学制度を活用してイギリスのリーズ大学へ。留学の目的は、環境社会学について学ぶことと、自分の英語力を磨くことでした。しかし、現地で暮らし、知らない文化圏の友人ができたことで、日本では得られない発見がたくさんありました。そして、自分にとって新しい知識をたくさん得ることができ、スーパーエキサイティングな経験がたくさんできました。

印象深かったエピソードを紹介します。現地では、外国から来ている人たちが集う集会によく参加しました。日本にいるときは、政治などについて真剣に議論している人は、それほど多くはいませんでした。どちらかというと、避ける話題だったかも知れません。しかし、外国では、政治について真剣に議論する若者がたくさんいました。ときには、議論が激しくなりすぎて喧嘩しているように見え、思わず「あなたたち大丈夫？」と心配して声をかけてしまったこともありました。自国に対する意識の違いを感じました。同時に、思っているよりも自国のことを熱く語れない自分の存在に気がつくきました。どちらかといえば、日本につ



旅先では現地の文化を楽しみます

英会話上達の秘訣

いて知っている方だと思っていたけれど、自国について熱く語る人たちを前に、熱く語れない自分を少し恥ずかしくさえ感じました。外国に行った日本人が、自国についてもっと知りたい、勉強したいと思うようになるというのはよく言われることですが、その言葉の意味を強く実感しました。

英語は好きで、得意科目でしたが、あまり実用的ではありませんでした。そこでIELTS(海外留学や研修のために必要な英語力を証明するテスト)の勉強を通して力を磨きました。受験勉強を通して、ライティングやリーディングは鍛えてきました。リスニングとスピーキングに課題を感じていたため、オンライン英会話も取り入れて勉強しました。

受験英語漬けだった私は、留学当初は苦労しました。日常会話のフレーズをあ

まり学んでいなかったため、会話に必要なフレーズが出てこないのです。しかし、英語圏にいるだけで、さまざまなフレーズに触れることができました。最初は、周りの人が使っている言葉を真似して使っていました。何回も口に出して繰り返し使っているうちに、だんだんと慣れていききました。口に出すことが一番大切、ネイティブの発音通りに真似することで、日本語から脱却することができました。耳はだんだんと慣れていきますので、安心してください。

最初は誰しも、思っていることが話せないもどかしさを感じると思います。日本人の傾向として、うまく話せないと恥ずかしいとか、完璧でないとダメと思ってしまうようです。しかし、海外の人は全然上手に話せても、とにかく話します。そこが他の国の人と日本人の違いと、そこだと感じました。大切なことは、目の前の相手とコミュニケーションする

話せるって強い

英語が話せるようになって、深く付き合える人が増えました。自分の中で、意識の国境が消えました。そ

意思があるのかどうかです。1年の留学を終えて、ストレスなく話をする事ができるよになりました。そして、日本に帰ってきてからも、外国人と話すことへの抵抗感がなくなりました。

中高生の皆さんへ

して、会話に深みが出てくると、相手に興味を持って自分自身の深い話ができるし、相手も深い話をしてくれるようになります。すると、相手との信頼関係や絆が生まれるようになります。言わずとも察する日本文化は素敵ですが、海外ではそれでは通じません。

留学に行ってから変わったねと友達に言われるようになりました。それは、自

私は以前、タトゥーをしている人を見て怖いと思っていました。しかし、海外でタトゥーをしている友人と仲良くなつてから、タトゥーに対して何も感じなくなりました。このように、違う文化や考え方が無数に存在する海外に身を投じて自分の知らないことを経験することで、自分の固定観念を取り払うことができました。同時に、まだまだ無知であると自分の未熟さを知ることができました。留学や旅行を通じて、自分の当たり前が通用しない経験をする事で、自分や他人に対しての考え方が柔軟になり、違いを否定せず受け入れ、尊重できるようにになりました。当たり前が通用しないからこそ、海外では何にも捕らわれず素直な自分でいられると感じてきま

分自身の考えをしっかりと伝えられるようになり、分からないことがあれば、相手にしっかりと聞けるようになったからです。はっきりさせたいあまり「ちょっとよく分からないけど、どういこと？教えて！」と言って、友達が驚くこともしばしば。しかし、悪い変化だとは思っていません。

した。私は、何度も海外に行くことで観光客用に切り取られた有名で綺麗な側面だけでなく、現地の人々がどう暮らしているのか、内部の実情を知りたいと思つてさまざまな国を見るようになりました。私の原動力は探求心です。もっといろんなことを見たい、知りたい、理解したいと感じています。これまでもそうであったように、これからも、私を突き動かすこの気持ちに正直に、妥協せずに生きていきたいと思えます。



スイス マッターホルンを望む

一言レポート



🇮🇹 イタリア 中学1年

建物や絵画など、とても有名なものを見て、テレビや教科書で見たものが実在することに感動。歴史が、他人事から自分の身近なことへと近づく感覚を覚えた。

🇬🇧 イギリス 中学2年

紳士的なふるまいやレディーファーストの文化を感じた。ドアを通る際、次の人のために開けて待っていたり、すれ違う際女性に道を譲ったり、スーツケースなどを女性・お年寄りの代わりに運んだり、そうしたことが当たり前に行われていた。

🇫🇷 フランス 中学2年

フランス語を話すことができないため、英語でのコミュニケーションを図った。しかし、英語が話せないのか話したくないのか分からないが、英語で会話をすることが非常に難しかった。英語は万能ではないと感じた。

🇨🇳 中国 中学3年

文化・環境が違えば異なる当たり前が存在していて、世界を見ることで自分の当たり前を基準にしてはいけないと考えられるようになった。

🇰🇷 韓国 高校1年

文化や国民性など、日本と近い雰囲気を感じた。日本からの観光客が多いことから、多くの韓国人が日本語を話せることに驚いた。

🇮🇪 アイルランド 高校1年

広大な土地で放牧などが行われており、北海道を彷彿とさせる景色だった。

🇩🇪 ドイツ・🇦🇹 オーストリア・🇨🇪 チェコ・ 🇸🇰 スロヴァキア・🇭🇺 ハンガリー 大学1年

中欧は歴史的に分離・融合を繰り返してきたことから、文化が混合していて雰囲気が似ていると感じた。

🇹🇷 トルコ 大学1年

大自然に奇形岩が並ぶカッパドキアなど、自然が綺麗で見どころが多い。しかし、最近では地球環境の変化から見られる景色が以前と異なってきた。行きたい、見たいと思ったら、その時に行動しなければ二度と同じチャンスはないのだと思った。

🇪🇸 スペイン 大学2年

人々がとても陽気でフレンドリー。「Hola, guapa!」（こんにちは、可愛い子!のような意味）などのフレーズが飛び交い、人を褒めることに積極的な風潮があったのが非常にスペインらしく好きな点。

🇨🇳 台湾 大学2年

電車や地下鉄などインフラも発展していて、女性も多くの人がお化粧をしているなど、同じ中華圏でも中国と雰囲気が異なるように感じた。

🇮🇩 インドネシア 大学3年

イスラム教人口が多い国だが、中東やアフリカなどのイスラム教国とはまた雰囲気が異なり、歴史ある寺院が数多く存在しているなど宗教の融合が感じられ興味深かった。

🇳🇱 オランダ 大学3年

weedと呼ばれる合法ドラッグがあるため、しっかりとした知識を持たずに行くと、よく分からずに吸ってしまう危険がある。そういう意味で危ない国だと思った。

🇧🇪 ベルギー 大学3年

国の中でも地方によって話されている言語が違う。ヨーロッパ諸国は大陸続きであり、分離・融合・植民地などの歴史が、現在にも影響している様子が見て取れた。

🇨🇭 スイス 大学3年

山々がそびえたっていて自然が本当に美しい国。早朝にマッターホルンに映る朝日を見に行った際、あたり帯には日本人旅行者が少なかった。朝日に熱狂的なのは日本人やアジアの人ばかりらしい。

🇲🇦 モロッコ 大学3年

ラマダーン（ヒジュラ歴の第9月の日の出から日没までの間、ムスリムの義務の一つである断食を行う期間）に訪れたこともあり、イスラム教色が非常に濃く感じられ、自分にとっては何もかもが目新しい空間であった。



🇮🇳 インド 大学4年

今まで一人旅をしてあまり怖くと思うことはなかったが、インドには一人では来れないと感じた。ガンジス河のほとりて祈りを捧げる人が大勢いる様子を見て、自分の信仰にまっすぐで熱心な人々の姿は美しいと感じた。

🇺🇸 アメリカ 大学4年

東海岸と西海岸で街人も雰囲気が全然違うように感じた。移民なども含め様々な人種の人が普通に共生していて、アメリカならではの多様性を感じた。



🇸🇦 アラブ首長国連邦 大学4年

ドバイは世界一のタワーなど高級そうな高層タワーがそびえたっていて、まさしく近代的な都市であった。イスラム教国家というと怖いイメージが蔓延しているが、一人ひとりと話してみると全然そうではなく、互いに歩み寄れる人々である。

🇵🇹 ポルトガル 大学4年

大航海時代のロマンが感じられ、その歴史に触れられた。隣国であり言語も似ていることからスペインと似た雰囲気を感じた。

「やりたい」を あきらめなくて 生きていく

高木亜麻子

1987年生まれ。岐阜県中津川市出身。麗澤瑞浪高等学校卒業。東京外国語大学フランス語学科卒業後、地元企業に就職。平成24年より塾講師として働き始める。現在は、キッズ英語教室、カフェ、書店などの運営も手がける。小学校英語指導者資格、英語検定準1級、フランス語検定2級、イタリア語検定4級、ポルトガル語検定4級など語学も堪能。

大学3年生で 海外ボランティアへ

外国語学部フランス語学科に進学したこともあり、大学3年生になると多くの学生がフランスやベルギー、または英語圏の国々へ留学に出かけます。私もどうしようか、あれこれと考えました。昔から英語が大好きで、翻訳家を志した時期もありました。さらに外国語が学びたくて入ったフランス語学科。しかし、フランス言語や文化などを色々学びましたが、フランスにあまり深い興味を持っていませんでした。そのような状況で参加した留学説明会で、留学経験者の中に、一人だけアフリカに行った人の存在を知りました。そのとき、「えっ、そういうのもありません」と衝撃が走り、すぐにその先輩に直



イギリスで出会ったボランティアチームの仲間

接アプローチして色々とお話を聞かせてもらいました。高校生の頃、世界史を勉強する中でアフリカの難民支援のことを知りました。もつと昔の記憶をたどれば、マザーテレサの伝記を読んだ時の強烈なインパクトが記憶の中にありました。以前より難民問題に興味のあった私は、海外の大学へ留学するのではなく、1年間休学してアフリカへ海外ボランティアに出かける道を選びました。

イギリスの ボランティア養成学校へ

フランス語圏のアフリカで、長期のボランティア活動に参加しようとした場合、高い語学力と高い実務能力が求められる、なかなか思うような活動に出会うことができませんでした。そのような中、CICD (College for International Co-operation and Development) というイギリス北部の東ヨークシャー・ハルにあるボランティア養成学校に出会いました。CICDでは、イギリスで6ヶ月間の事前研修、アフリカで6ヶ月のボランティア活動ができる国際ボランティアプログラムが組まれていました。これなら英語の勉強もできるし、アフリカでボランティア活動もできるので、参加することにしました。

イギリスでは、世界各地から来ていた仲間と、いろんな国の文化やグローバルな問題について調べたり、紹介しあったりして学びを深めました。エイズキャンペーンなどの啓発活動にも参加したり、古着回収のプロジェクトの手伝いなど、

幅広い活動に参加することができました。当時、学校には60〜70人が在籍していて、私が参加したチームには30人くらいの仲間がいました。色々な国の人との寮生活は、部屋も相部屋でしたので、とても楽しい経験をさせてもらいました。

アフリカ・モザンビークへ

私の派遣先は、モザンビーク共和国の北部の港町ナカラでした。派遣先は、現地からの要請とこちらの希望がマッチす



モザンビークの中高生たちと



教員養成学校の生徒たちと

ることで決まります。当時は、教員養成学校、小学校、幼稚園での支援や農業系やエイズ系のプロジェクトへの支援要請がありました。その中で私は教員養成学校を選びました。このような派遣事業においてよくあることですが、英語の指導者として派遣されたものの、現地の学校のカリキュラムが変更されていて、英語の時間割がないという現実が待ち受けていました。最初の1ヶ月は、戸惑いながらも毎日学校へ行き、現地でのニーズを探りました。そして、何かのお役に立とうと、教育実習生へのアドバイス、課外活動の企画、英語クラブを立ち上げて英語の指導、パソコンの指導などさまざまな活動を行いました。熱い思いを持った若者がたくさんいたので、やりがいがありました。やはり海外では、突発的な出来事に対して、どれだけ柔軟に対応できるか、そして、どれだけ積極的に自分で考え行動できるかが重要だと痛感させられました。

アフリカの大地で考えたこと

アフリカへ行って感じたことは、私が現地で活動することがベストではないということでした。現地には、日本では想像できないほどのさまざまな課題があるけれど、私一人が活動したところで何も解決できないと感じてしまい、ある種の無力感を味わいました。また、自分がまだ「何も知らない」という現実も知りました。同時に、現地での生活を通して、「地域をつくることの大切さ」について実

感させてもらいました。そのような体験から、日本での生活ってどうなんだろう、「日本とは」「自分とは」を真剣に振り返る時間がとても多くなりました。行きついた結論は、日本にいてもやれることはあるし、日本でしっかりと学んでまたアフリカに行きたいと思えば戻ればいいし、現地のことを思いながら生活するのがいいという結論に至りました。そして、任期を終えて帰国した私は、大学を卒業した後、地元で就職する道を選びました。

地元で働く現在

現在は、母が代表を務める塾で講師として働きながら、地元の課題解決に少しでも貢献できるようにさまざまな活動を行っています。

私の主人はイタリア人（アフリカの海外ボランティアで出会いました）で、平成28年4月より地元で「ミラマール」というカフェを経営しています。そのカフェを会場として、平成28年10月から大人の学び場「ミラマールカフェ大学」として、さまざまな講座やイベントを実施してきました。企画の出発点は、田舎にいても、いろいろな文化的学び場があるといいなという思いがあったからです。

さらに平成29年5月には、カフェの隣に「本や+α」をオープンさせました。きっかけは、地域に唯一あった本屋が閉店すると聞き、ショックを受けたことです。文化の象徴とも言える本屋が一つもない。地元がますます寂しくなっていくような気がしました。田舎に住んでいても、楽

しく暮らせる地域にしたい、誰かにやってもらおうではなく、自分たちでそうした場を作ってしまおうと考えました。

そしてこれから

次に何をやるのか、いつもワクワクしています。考え方の基本は、「楽しいからやる」「やらないよりやる」。私は、やれない理由を探すよりはどうしたらできるかを考えます。もちろん私一人ではできないことばかりです。しかし、頭の中にいつもさまざまな構想を用意して待っていると、人や場所との出会いを逃すことなく、多くの人の協力を得て希望を実現することができると思います。私はこれからも「やりたいをあきらめない」で楽しんでいきたいと思っています。



古着回収プロジェクトに参加

色々なことに対応できる古本屋

『本や+α (プラスアルファ)』

■住所：岐阜県中津川市下野 217-18



1 古本屋 & 貸本屋

「とても面白かったから、誰かにおすすめしたい！」
「自分を変えてくれた本を、次の人に託したい！」
「大人になってから読んだ本だけど、是非若い世代に読んでほしい！」
「大切な本だから、普通の古本屋には売りにたくない……」
自分を育ててくれた大切な本を、次の誰かに手渡してみませんか？また、昼間に読書をしたり、パソコン作業をしたりと、自習室のようにも使っていただけます。知識を増やし、心を豊かにする。そんなお手伝いをします。

3 英語で話そう会

学校であれだけ勉強するのに、なぜ日本人は英語が話せないのでしょうか？大きな理由のひとつは、「話す機会が少ないから！」。そこで、初心者も中高生も、少しでも話せる人も一緒になって「英語だけで話す時間」を過ごします。



5 BOOKLOVE 読書会

本好きの人が、他の人と感想や考察を交流できる倶楽部。読書は一人でもできますが、また違った楽しみ方ができます。



2 ミニシアター「チネマ・ピッコロ」

大きなシネコンでは観られないドキュメンタリーや小作品を上映し、感想などを共有できるミニ映画館です。



4 アナログゲームセンター

ボードゲームやカードゲームなどアナログなゲームを皆で楽しむ場。世代を超えて交流できます。



6 各種講座・イベント

心理学や子育て講座、ヨガ教室、パソコン教室、読み聞かせ会など本に関するイベント、フリーマーケットなど、さまざまな催し物を行っています。



道は無限にある

高尾康太郎

1998年生まれ。愛知県春日井市出身。麗澤瑞浪高等学校卒業。平成29年岐阜大学医学部医学科に進学。本校在学中は、級長、寮長など各方面で活躍。

なぜ医学部を志したのか

高校入学時の目標は漠然としていて、はつきりと定まっていませんでした。中学時代は塾に行くこともなく、学校で勉強・部活をして、家ではゆっくりするというライフサイクルでしたので、当時は自分の実力もよく分からなかったというのが正直なところ。麗澤瑞浪入学後は、高校1年の担任の先生が東京大学出身の物理専攻だったこと、自分自身が数学や物理に興味があったこと、模試などの結果から、志望大学を京都大学に設定しました。最終的に医学部志望を決めたのは、高校3年の4月です。好きなことと仕事という点から、好きな数学や物理は趣味でもできそうだけれども、医者という職業は医学部に入らなければなることはできないと思ったからです。元々、医者への憧れがあったので、思い切った進路を医学部にしました。また、麗澤瑞浪の寮生活では、テレビが身近にありません（娯楽スペースにはあります）。中学時代まで、生活の優先順位が①テレビ②ゲーム③勉強だったので、必然的に勉強量が増えていたことも良かったと思います。

医者として大切なこと

まだ6年間のうちの1年目なので、ほとんどが教養科目です。しかし、学ぶことは多く、日々勉強するということは高校時代と変わりません。そして何よりも驚いたことは、部活をやっている先輩や

同期がたくさんいるということです。勉強もできて、部活もハイレベルな人がたくさんいるのです。もちろん、医学部を志して中学生の頃から部活もせず、勉強を重ねてきた人もいます。

ですが、そのような人が多数派ではないのです。私自身は中学、高校と続けてきた卓球を今でも続けています。高校時代は同期に恵まれ、県大会でベスト8まで進出することができました。高校2年の12月まで部活動は続け、残りの1年間を受験勉強の期間としました。

大学病院の先生や先輩方を見ていて感じることは、総合力が必要だということです。日々進歩し続ける医学を学び続ける意識、患者さんとの対話で相手の想いをくみ取るスキル、分かりやすく説明することができるとコミュニケーション能力、医療活動に従事するための体力があるということです。医者になるということとは、勉強だけでなくもだめなのだと実感させてもらいました。同時に、このような医者に必要な能力を、寮生活や学校生活の中で育むことができていたことを、卒業してから改めて感じています。特に重要なコミュニケーション能力に関しては、寮生活で得られたものが大きかった



高校卓球部の仲間たち



です。寮生活は、24時間仲間と関わっていますので、楽しいこともありですが悩むことが多いのも事実です。私は3年間の寮生活を通して、相手のことを考えた言動ができるようになったと思います。

支えてくれる人への感謝

医学の進歩により、人の平均寿命は延びています。長い人生の中で、多かれ少なかれ悩むことはあります。そういうとき、実は自分の狭い考えに固執してしまっていることが多いように思うのです。今はこうやって落ち着いて話をさせてもらっているのですが、入学して間もない4月には、このまま医学部で6年間を過ごし、医者になる人生でよいのだろうかと思ったり、悩んだ時期がありました。入学するまでは、医者になりたいという思いだけで医学部に入るための勉強をしてきて、入学するためにはどうすればよいかということはある程度、努力もしてきました。しかし、そこまでだったのです。入学後、将来自分が医者になるということはどういうことなのかというのを具体的に調べ出したときに、想像していたよりも大変であったり、医者になって臨床を続ける姿を考えて、これが自分のや

りたかったことなのだろうかと思いがちです。自分で考えていた憧れと自分が見ている現実のギャップが大きかったわけです。

そんなとき、声をかけてくださったのが、親や先生方でした。私と同じ麗澤瑞浪高校を卒業し、現在、岐阜大学病院で医師として働かれている加藤善一郎先生に食事に誘っていただいたときのことです。「これからの医者は医学だけではだめだ。どんな科学が進んできても、それが医療に応用される時代になってきている。医学だけ学んでいるのでは時代遅れになってしまふ。医者の道は広いんだぞ。医者の中でも物理を使うような研究の道もあれば、患者さんと向き合うことを大切にする臨床の道もある。どういう医者になるかは医者になってから選べるんだ。」そんな言葉をいただいたとき、今まで思い悩んでいたことがスッと腹に落ちる感じがしました。実際に加藤先生もMRUの研究をされていました。患者さんと対峙する医療活動だけでなく、興味のあることを専門にする医者になる道もあるのだと思いました。そして現在、そのときに紹介していただいたご縁で、物理の研究を重ねてこられた桑田一夫教授（岐阜大学大学院連合創薬医療情報研究科）の研究室で勉強させてもらっています。全てのことは当たり前ではなく、道に迷った時にこそ本当の自分を見つめ直すとても貴重な機会となることを学びました。そして、何より大切なのは、さまざまなアドバイスを素直に受け入れる開

放された心を持ち合わせているかです。高校時代、担任の先生から「まずはこれをやってみようと言われたとき、信じて実行することが大切だ」と教わっていました。それを信じて努力した結果、偏差値もどんだん上がっていききました。素直に受け入れられる心も、高校時代につながりとして育っていったと思います。

医学部に入るための勉強は？

勉強の基本は学校の授業です。授業中、受け身ではなく頭をフル回転させて積極的に参加していれば、自習時間も有効に使えます。授業以外の自習は、高校1年生は3時間、高校2年生は4時間、高校3年生は6時間を目安に取り組みました。寮での自習時間を無駄にせず取り組み、遅くとも24時までには寝るようにしていました。高校2年になると、もう少し自習の時間を確保したかったので、朝早く登校して1時間自習をするようになりました。無理をして勉強しても長続きしません。私の良かったことは、継続して自習をすることができたことです。何か特別なことをしたわけではなく、当たり前前のことを当たり前に続けたということだと思います。高校2年の3学期からは、部活も引退していたので、放課後に2時間の勉強時間を追加することができました。土曜日、日曜日については、8時間くらい勉強していました。

内容としては、基本に忠実に「数学」は黄色チャートで実力をつけました。青色チャートの方が難しいのでそちらをと

いう人もいますが、黄色チャートで十分受験に対応できました。「英語」は音読が絶対に大切です。高校2年くらいまで甘く見ていましたが、これを始めたことで一気に実力を伸ばすことができました。また文法は20単元くらいしかないので、その部分を理解しておくことと、最後は単語力です。「理科」は問題集を中心に応用力をつけました。「国語」「地理」については、僕に聞かない方がいいと思います（笑）。

受験生へのアドバイス

一番大切なのは「素直さ」です。先生が言われたことを素直に受け入れ取り組むことです。独自の方法でやっている人もいますが、よく考えてみてください。先生方は数多くの生徒を見て指導されてきた実績があります。その上に、現在の指導があるわけです。自分自身の乏しい経験に基づく考えと比較する必要性は感じられません。

最後に私が悩んでいる時に父から言われた言葉を送ります。

「人は何にでも向いている」

今の環境や状況に不満を持つよりも、前向きにとらえることのできる魔法の言葉です。

自分が思っている以上に、未来は明るいですよ。

麗澤瑞浪に 学んで

No. 005

西尾日那

麗澤瑞浪中学・高等学校卒業。岐阜県恵那市岩村町出身。選抜クラス（現特進コース）に所属し、勉学に励み、平成30年4月より、名古屋工業大学工学部に進学。



私は麗澤瑞浪で、日常生活や道德の授業を通して、三つのことを学んだ。

一つ目は「感謝の心」だ。普段当たり前だと思っていることは、決して当たり前ではない。実は有ることが難しく、感謝すべきことであると学んだ。私はこれをきっかけに、周りの人に心から「ありがとう」と言えるようになった。また、寮生の友達の話から、家事がどれほど大変であるかを聴き、いつも家事をしてくれる親や祖母に感謝し、時間があるとき

は自ら手伝えるようになった。そして、人から感謝されることの喜びを知り、自ら進んで周囲の支援ができるようになった。

二つ目は「周囲への気配り」だ。道德の授業で、日本人の気配り精神について学んだ。その話を聴き、私は日本人であることを誇りに思い、自分自身でその日本精神をたくさんの人に伝えていきたいと感じた。そのために、まずは自身が手本となるように、周囲への気配りを意識するようになった。

三つ目は「伝統を守ることの大切さ」だ。高校2年次の台湾研修旅行を通じて、日本の素晴らしさ、日本人の素晴らしさを知った。また、日本と世界の国々にまつわる物語を学び、日本人は世界の人々から賞賛されていることを知り、誇りに思った。先祖から代々受け継がれてきた日本精神の大切さを実感すると同時に、私もさまざまな伝統を守っていききたいと

思った。

私は卒業後も、麗澤瑞浪で学んだことを忘れず、麗澤瑞浪の卒業生であることに誇りを持って過ごしていきたい。





連載「西尾先生の経済教室」 Vol.2

このコーナーでは、中学生のみなさんに向けて“知っているようで知らない経済のコト”を、紹介していきます。これを読めば、経済やお金について、ちょっとだけくわしくなれるはずです！「経済」と聞くと難しそうなイメージがありますが、みなさんが興味を持つきっかけになればうれしいです。

1995年生まれ。岐阜県恵那市出身。麗澤瑞浪中学・高等学校卒業。高校時代は選抜クラス（現特進コース）に所属し勉学に励む。部活動はゴルフ部に所属。平成26年南山大学経済学部に進学。現在は金融系ベンチャー企業で株式投資を行っている。



テーマ 株式投資を知ろう

■株式投資ってなに？

みなさんは、「株式投資」と聞いて何か思い浮かべるものはありますか？おそらく、多くの人が「金儲けの手段」や「ギャンブル」といったイメージを持っているのではないのでしょうか。しかし、これは少し間違っています。株式投資は「単なる金儲けの手段」や「ギャンブル」ではありません。私が思うに、株式投資とは「自分が応援したいと思える企業にお金を預け、その企業が株主のお金を使って価値あるサービスを世の中に提供することによって対価を受け取り、それを配当や株式の値上がり益として還元してもらうことで、株主自身が資産を増やしていくこと」です。要するに、「自分にも、会社にも、社会にも役立つお金を増やす方法」なのです。これは、自分も会社も社会にもメリットがある「三方よし」という考え方に基づいています。

なぜ、株式投資はお金が増えるのでしょうか。それは、「株式」というシステムに答えがあります。R-STYLEの前号でも書いた通り、株式投資の主役である「株式」は、会社がモノやサービスを世の中に提供するために必要なお金を調達するツールでした。株式を発行した会社のことを「株式会社」と呼び、誰かがその株式を買うことで企業にお金が入ります。そして、企業はそのお金を使ってモノやサービスを提供し、対価としてお金を受け取るのです。経済の世界では、このお金のことを売上高と言います。

しかし、売上高の全てが企業の取り分になるわけではありません。なぜなら、モノやサービスを作る時には材料や労働力、宣伝活動が必要で、企業はそれらにお金を支払っているからです。経済の世界では、材料費のことを「売上原価」、労働力や宣伝活動のことを「販管費（＝販売費及び一般管理費の略）」と呼んでいます。つまり、これらを差し引いた「売上高－（売上原価＋販管費）」で求められる金額が会社の利益になります。

この利益は会社のものなので、使うことも貯めておくことも会社の自由です。

企業はこれを毎年繰り返しているのです。利益がどんどん積み重なっていきます。逆に考えれば、利益をたくさん積み重ねている会社は、その企業のモノやサービスが社会から必要とされており、たくさん売れていると考えられます。このような会社は評判が上がり、株式を買いたい人が増えるので、株価が高くなっていくのです。このタイミングで株式を売れば値上がり益を手に入れることができるので、お金を増やすことができます。

次に、なぜ株式投資はギャンブルでないとと言えるのでしょうか。それは、株式投資はギャンブルと違ってお金が増えるからです。ここでは、参加者から集めたお金の合計をケーキの「パイ」に見立てて考えていきましょう。まずは株式投資ですが、先ほど説明したように、企業は株主から集めたお金を有効活用して利益を手に入れます。利益は毎年企業の中に蓄えられますし、利益が上がっている会社は世間からの評価が高いので、企業が持っている価値が高くなり、「パイ」がはじめの頃よりも大きくなるのです。

対してギャンブルは、参加者が出し合ったお金からギャンブルの主催者が一定の金額を取り上げ、その残りをゲームの参加者で分け合うものをいいます。つまり、参加者がお金を出し合って作った「パイ」から、ギャンブルの主催者が美味しい部分を先取りして食べてしまい、その残りを参加者で分け合っているのです。これでは、均等に切り分けたとしても、一人が受け取る「パイ」は出資額よりも小さくなってしまいますよね。

このように、「パイ」が大きくなるのが株式投資であり、小さくなった「パイ」を取り合うのがギャンブルなのです。株式投資とギャンブルの最大の違いがわかりましたか？

学校・寮見学
随時受付中!
お気軽に
ご連絡ください

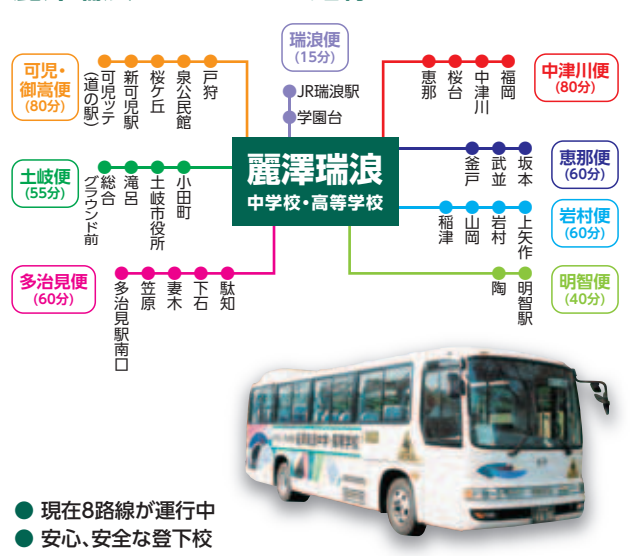


麗澤瑞浪中学・高等学校は北海道から沖縄県まで全国から生徒が集う寮のある学校です。帰国子女もたくさん入学しています。

交通のご案内



麗澤瑞浪スクールバス路線図



麗澤瑞浪中学・高等学校

〒509-6102 岐阜県瑞浪市稲津町萩原1661
TEL:0572-66-3111 FAX:0572-66-3100
<http://www.mz.reitaku.jp>

学校法人 廣池学園

麗澤大学 TEL:04-7173-3601
 麗澤大学大学院 TEL:04-7173-3633
 麗澤中学・高等学校 TEL:04-7173-3700
 麗澤幼稚園 TEL:04-7173-3526